資料 7-2-1

第 6 回計画部会における主な指摘について

平成 18 年 12 月 14 日
宇宙開発委員会事務局

○　宇宙開発に何が欠けているのかという根本的な問題について、ミッションサクセスありきで考えるべきである。
○　宇宙仕様として独自に技術開発をすべきものと、民生技術開発を促進すべきものを、仕分けすべきである。
○　信頼性の向上のためのノウハウを民間が持つのか、国として持つかを考える必要がある。民間が担うのであれば、人材の確保も含めて考える必要がある。
○　産学官のそれぞれにおいて、宇宙開発に従事する人が生き生きと、楽しく取り組めるような、パラダイムの転換が必要である。
○　アメリカ政府が政府調達において行っているような、アファーマティブ・アクション（強制措置）のような仕組みを、日本においても検討すべきである。
○　大学は極めて人材が豊富であるので、大学との連携を一層考えていく必要がある。JAXA のプロジェクトについても大学と連携して、ある程度大学に発注するシステムを作ってはどうか。
○　設計寿命について、長寿命化を目指すよりも、コスト削減を目指す方が有効ではないか。
○　設計寿命の目標設定について、地上試験が困難であることや、技術の陳腐化、コストの増大などの要因から、一概に決めることはできない。
○　ペイロード比率について、単純に向上を目指すだけでなく、信頼性確保の観点から適切な目標設定をするべきである。